

身延山久遠寺藏本朝文粹訓点データ夕集稿 (二)

王暄 高田哲治 陳翰柯 戴玉潔 孫瑾 陳博林 孟津卉 張璐 王帥予

卷第二

- 上は先―帝臂(返)を把ル〔之〕託(二)を思(二)ヒ・下(シモ)少―子頸(返)を抱ク〔之〕情(二)を知(二)レ。(身延文粹・上二一・5)
- (・かみ・とる・タク・おもふ・しも・くび・いだく・しる・)
- 凡ソ―厥ノ攝―行・一に前の詔(二)(の) 如(二)セヨ。(身延文粹・上二一・6)(・おほよそ・その・いつに・ごとくにす・)
- 縦(ひ)方―赤を〔於〕公か口(二)に瀝ツトモ・何ソ雌(二)黄を〔於〕朕か脣(二)に下(二)サン。(身延文粹・上二一・7)(・したつ・とも・なにぞ・シワウ・くちびる・くだす・む・)
- 之を 悉(コトクケン)スラク〔イ、悉ス〕耳ミ(身延文粹・上二一・8)(・ことごとくんす・らく・シツ・す・のみ・)
- 同公關白(を)辭スル表(二)(に)答(二)スル勅―答(身延文粹・上二一・10)(・す・す・)
- 勅す 表(返)を得て 忽(タ)に遜(去)―讓(上濁)(の)〔之〕懷(二)
- を見(二)ツ。(身延文粹・上二一・11)(・たちまちに・ソンジヤウ・をもひ・みる・つ・)
- 公・臣(平)―弼(入)(の)功積リ・化―導(の) 慮(おんほむ)―高シ。(身延文粹・上二一・11)(・つもる・おもんばかり・たかし・)を増ス(身延文粹・上二一・12)(・なり・ひかり・ます・)
- 前―朝(の)〔之〕聖―明ナル・公(返)を待(ち)て耀(返)を今朕か〔之〕愚―昧ナル・誰を頼ンテカ矐(返)を披カシ。(身延文粹・上二一・12)(・グマイ・なり・たのむ・て・か・モウ・ひらく・む・)
- 而を期(返)に先(ち)而老(訓)を告ケ・病(返)に託ケ以情(返)を陳フ。(身延文粹・上二一・13)(・ゴ・さいだつ・つぐ・つく・のぶ・)
- 藥―石(の)〔之〕至―言(二)を憶(二)フ毎(三)に・唯(た)霧

(去濁) 露(の)「之」永ク散(二)センコトヲ望(二)む。(身延文粹・上二一―13) (・をもふ・ながし・す・む・こと・を・)

○何ソ謙を「於」四海(の)「之」朝―務(二)返(二)に流(二)シテ跡ヲ「於」五―湖(の)「之」春の―煙(二)に浪(二)センと欲(三)ル「乎」。(身延文粹・上二一―14) (・なにぞ・ケン・テウム・ながす・あと・を・ゴゴ・みだりがはしくす・む・す・)

○彼の賢―息(入)數(上)―人共に將(去)―相(去)爲(二)ルに至(二)テ・或は徳(返)に因(り)て進(二)ミ・或は功(返)を以て登(二)ラ不(二)トイフコト靡(三)シ。(身延文粹・上二一―1) (・ケンソク・たり・て・すすむ・のぼる・ず・と・いふ・こと・なし・) (「至」、二二点は「三」点の誤写か。)

○公か三―四(の)「之」子(訓)と謂(二)ふこと勿(三)かレ・斯(れ)乃(ち)朕か「之」二―八(の)「之」臣「也」(身延文粹・上二二―3) (・なし・すなはち・)

○天既に其(の)爵(二)を與(三)フ・世皆(な)其(の)賢(二)を欽(二)ム。(身延文粹・上二二―3) (・あたふ・つつしむ・) ○亦(た)何ヲカ―言フ「哉」・何(をか)言(ふ)「哉」(身延文

粹・上二二―4) (・なに・を・か・いふ・)

○詞―藻(上)を飭ルと雖(も)・豈(に)心―根を動(二)サンヤ。(身延文粹・上二二―4) (・かざる・うごかす・む・や・)

○縦ヒ性を花―月(二)返(二)に養(二)テ且(二)に林―菌(の)「之」間(二)に遊(二)フトモ・猶(ほ)契(二)を風―雲(二)返(二)に思(二)テ槐(平)―棘(入)の「之」上(二)を離(二)レ不(三)。(身延文粹・上二二―5) (・たとひ・やしなふ・まさに・あそぶ・とも・ちぎり・ほとり・はなる・)

○能ク此の意に體(音)シ(て)後章を煩(二)スルこと莫(か)レ(身延文粹・上二二―6) (・よく・す・いたつかはしくす・なし・)

○同公の致―仕(平濁)の表(二)に答(二)スル勅(身延文粹・二二―9) (・チジ・す・)

○勅す表(返)を省(二)ミテ高―旨を具(二)シツ。(身延文粹・二二―10) (・かへりみる・つぶさにす・つ・)

○朕前(サキ)に・公―且(クワン)を指(し)而(去)類(去)暮(去濁)を懷(二)ヒ司―馬(ヒ)を懸(二)車(ヲサ)を抑(フ)。(身延文粹・二二―10) (・さき・コウタン・タイ

ボ・をもふ・ひく・をさふ・(「暮」、下に「一本」)。

○公今・還て謝―徳(の)「之」色(一)返(返)を凝(コラ)シて彌(よ)

執―謙(の)「之」光(ヒカリ)を照(テラ)ス。(身延文粹・一二・11)

(・こらす・ひかり・てらす・)

○又(た)猶(ほ)彼(返)を以て希(平)―有(上)の「之」

睨(アト)ゝ爲(ス)ル歟。(身延文粹・一二・12) (・あと・と・す・)

○昔・呂―望(人名)か鬢の邊(の)「之」雪・世未(た)其(の)

煙―溪(平)に歸(ニ)ルコトヲ傳(三)返(返)へ「未」(再讀)。(身延

文粹・一二・13) (・かへる・こと・を・つたふ・)

○姫(平)―爽(人名)か面の―上(の)「之」波・人豈(に)「之」粉

―澤(二)に踰(コ)エタリと謂(イ)ハンヤ。(身延文粹・一二・13)

(・キセキ・こゆ・たり・いふ・む・や・)

○況(や)・待(返)所は「者」臥―治・誰か夜―行を責(セ)メン。

(身延文粹・一二・14) (・せむ・む・)

○將(ト)に「於」居―閑(二)に任(ニ)返(返)センと「將」(再讀)レハ・

恐(おそ)は「於」朝―務に迷ハンコトヲ。(身延文粹・一三・1) (・ま

さに・まかす・む・す・ば・おそらくは・まよふ・む・こと・を・)

○縦(ヒ)枯(返)レタルを燔(タ)イ「イ、燔イ」以生(音)を養(ニ)

フこと有(三)リトモ・榮(平)を逃(ノカ)レ以老(返)を終(ヲ)ヘンコ

トヲ許(ユル)サ不(シ)。(身延文粹・上二三・2) (・かる・たり・た

く・やく・やしなふ・あり・とも・のがる・をふ・む・こと・を・

ゆるす・じ・)

○宜(ク)國(返)を憂(ふ)ル「之」常(の)―情(二)返(返)を思

(二)て永ク家(返)を傳(ふ)ル「之」苦(上)―請(平)上

を停(ヤ)ム「宜」(再讀)下(下)。(身延文粹・上二三・3) (・う

れふ・ながく・つたふ・やむ・)

○勉(ツト)メて醫―藥(返)を加へて重(ね)て陳スルこと莫(か)レ「焉」

(身延文粹・上二三・4) (・つとむ・くはふ・す・なし・)

○枇―杷の左大臣の職(返)を辭スル表(二)に答(ニ)スル勅(身延

文粹・上二三・6) (・す・す・)

○勅(重)重(て)表(返)を得て之(返)を具(ツツ)シツ。(身延文粹・

上二三・7) (・つぶさにす・つ・)

○夫(れ)・事(返)を立テ官(返)を立(つ)ル卿家(の)「之」

舊―語ナリ。(身延文粹・上二三・7) (・たつ・たつ・ケイカ・な

り・)

○功(返)を世(返)シ德(返)を世(に)スル・何(返)の一人(の)「之」
遣(返)蹤(返)ソ。(身延文粹・上一三・七) (・よ・に・す・す・いづれ・
ぞ・)

○去(返)病(人名)は則(ち)是(れ)霍(入)將軍博(陸)か「之」兄(訓)
ナリ・玄(返)成(人名)は寧(ろ)韋(丞)相(人名)第二(の)「之」子
(二)に非(三)スヤ。(身延文粹・上一三・八) (・なり・あらず・
や・)

○縦(ひ)侯王種(二)無(三)と云(返)フトモ・巳(に)公(卿)門(平)
(二)有(三)ルコトヲ知(三)リヌ。(身延文粹・上一三・九) (・
シユ・いふ・とも・あり・こと・を・ぬ・)

○況(返)ヤ公・芝(平)―扇(平)に寵(返)を席(ク)・曉(の)―星(を)載(イ)
而(返)年(返)を積(ミ)・椒(平)―室(に)花(返)を縮(フ)・春(の)―露(に)霑(ひ)
而(返)月(返)に映(ス)。(身延文粹・上一三・10) (・いはむや・シケ
イ・しく・いたたく・つむ・セウシツ・むすぶ・うるふ・エイ・)

○朕(か)「之」加(返) (ふ)ル所・自(ら)僉(屬)に副(へ)リ。(身
延文粹・上一三・11) (・くはふ・センシヨク・かなふ・り・)

○方に今・一片風―清シ・奔(競)ケイ(の)「之」跡(二)を拂(三)フ
と雖(三) (も)・萬(機)塵(一)―鬧(シ)・恐(は)謙(讓) (の)「之」
懷(二)に擁(三)センコトヲ。(身延文粹・上一三・12) (・き
よし・ホンケイ・はらふ・いそがはし・おそらくは・をもひ・キヨ
ウ・す・む・こと・を・)

○朕(か)心石(訓)に匪(ス)公何(ソ)轉(返)ス可(ケン)ヤ。(身延文
粹・上一三・13) (・あらず・なにぞ・まるばす・べし・む・や・)
○地(中)「之」地(中)「の」(之)山(二)返(を)重(三)ネテ以(て)天
下(の)「之」望(上)を塞(中)クこと莫(下)カラマク耳(ミ) (身
延文粹・上一三・14) (・かさぬ・のぞみ・ふさぐ・なし・まく・
のみ・)

○六條右大臣の職(返)を辭(ス)ル表(二)に答(三)スル勅(身延文粹・
上一四・2) (・す・す・)

○勅(す)右大臣重(ネ)タル表(返)を省(て)懷(返)フ所(返)を具(具)
シツ。(身延文粹・上一四・3) (・かさぬ・たり・かへりみる・
おもふ・つぶさにす・つ・)

○勅(す)右大臣重(ネ)タル表(返)を省(て)懷(返)フ所(返)を具(具)
シツ。(身延文粹・上一四・3) (・かさぬ・たり・かへりみる・
おもふ・つぶさにす・つ・)

○於^ア「戯・止―足」の「之」慮^{おもんはむリ}・勵^{ライ}（去）―卿^{キヤウ}（の）「之」

風（訓）高（返）（し）と雖（も）・謙―退（の）「之」詞・鬱―邑

（の）「之」煙（訓）散（返）シ難シ。（身延文粹・上一四・3）（

あ・おもんばかり・ライキヤウ・す・かたし・）

○惟^コレ公ハ・朝（平）の「之」宿（入）―齒^シナリ・肝（平）―膽^{ダン}を瀝^{シタ}テ

而年深シ。（身延文粹・一四・4）（これ・は・シユクシ・なり・

カンタン・したつ・ふかし・）

○國（の）「之」英（平）―髦^{ホウ}（平濁）ナリ・喉^{コウ}―舌^{シツ}を經^ヘテ「而」「イ

經^テ而」日久シ。（身延文粹・一四・5）（エイボウ・なり・コウ

ゼツ・ふ・て・ひさし・）

○夫^ツレ・勞^{ラウ}（去）（返）を惠^{メツ}ンテ必^ス（す）酬^{ムツ}ユルは「者」聖―哲（の）

「之」彝^イ―範（なり）（身延文粹・一四・6）（それ・めぐむ・

むくゆ・イハン・）

○仁（返）（返）に當^ア（り）て讓^ズ（返）ラ不（る）は「者」・人臣（の）

「之」表―儀ナリ。（身延文粹・一四・6）（あたる・ゆづる・

なり・）

○朕（か）「之」此（の）舉^音・公何ソ辭^シ（返）スルコトヲ得^エン。

（身延文粹・一四・7）（なにぞ・ジ・す・こと・を・う・む・）

○縦ヒ其（の）事（二）を高（二）―尚^{シヤ}ストモ・誰か其（の）情（二）

を允^上（二）―容^{ヨウ}（平）セン哉^ヤ。（身延文粹・一四・7）（たとひ・

コウシヤ・す・とも・インヨウ・す・む・や・）

○彼（の）言^{コト}を暮^ム―年（二）に寄^ヨ（二）セ・勤^{ツトメ}を朝―霧^上に謝^中（中）

スルに至^下（下）（り）テハ・昔・呂―尚^去（去）―父^{人名}か「之」面^{ヲモテ}

ノ―波^ハ・涓^キ―水^水を別^チ（ち）而猶^テ（ほ）疊^{タガ}ミ・園^平―司^平―徒^{人名}

か「之」鬢^{ハシ}の雪・商―山^山を出^テ（て）而既に寒^{サム}シ。（身延文粹・一四

・8）（こと・よす・つとめ・す・て・は・をもて・の・キスイ・

たたむ・さむし・）（原本「寄」、破損。）

○然モ・周―文漢―惠^{人名}・皆^な（な）嘉^ホ―謨^{平濁}（二）に資^ヨ（二）

ル者^{もの}ナリ「也」（身延文粹・上一四・10）（しかも・カボ・よる・

なり・）

○公^{イヨク}逾^ク者―成（の）「之」誠（二）（返）を扶^ニ（二）ケテ少^{シハラク}モ休^{キウ}スル

「之」思^ニ有^ニ（二）（る）こと莫^ニ（三）（か）レ（身延文粹・上一四

・11）（いよいよ・たすく・しばらくも・キウ・す・なし・）

○入道前太政大臣并て章奏等(二)を辭(三)スル表(上)に答(下)スル勅(身延文粹・上一四・14)(・ジ・す・す・)

○勅す 表―翰(去) 稠(平)―豊シテ雅―言(二)を合(平)(三)―咀(上)す。(身延文粹・上一五・2)(・へウカン・チウテフ・す・カンシヨ・)

○惟(平)レ公(音)・蘅(平)―蓀(平)芳(音)(平)を蓄(去)へ・瑤(平)鋭(上)美(音)(返)を擅(ホシイマ、ニ)ス。(身延文粹・上一五・2)(・これ・カウソ・ン・たくはふ・エウセン・ほしいままにす・)〔鋭〕、〔銑〕の誤写か。

○寄(ヨ)セ象―岳(二)ヨリモ高(三)シ・既に杞(上)―梓(上)(の)〔之〕材(二)を養(三)フ。(身延文粹・上一五・2)(・よす・より・も・たかし・キシ・やしなふ・)

○地渭―陽(二)ヨリモ貴(三)シ・能(く)江―湖(の)〔之〕量(平)(二)を韜(三)メリ。(身延文粹・上一五・3)(・より・も・たとし・つつむ・り・)

○爰に・素―性(イサキヨウ)潔(シ)而清―謙(二)を執(三)リ痾(平)―恙(ヤウ)侵(シ)而重―秩(二)を辭(三)す。(身延文粹・上一五・4)(・いさぎよ

うす・とる・アヤウ・をかす・)

○昔・漢の邴(上)―丞―相(人名)病(返)有リ・夏―侯―勝(平)(人名)帝(返)(返)に言シテ曰(く)・吉陰―徳有リ・疾以テ瘞(イ)ユ可(シ)。

(身延文粹・上一五・5)(・あり・まうす・あり・いゆ・)○厥の後何(返)(返)ト無シテ果(ハ)シテ其(の)言(の)如シ。(身延文粹・上一五・6)(・なにと・なくす・はたす・こと・ごとし・)

○猗(ヨイ)乎(平)・公か〔之〕徳―行(去)・古―賢に慙(ハ)ツルこと無シ。(身延文粹・上一五・7)(・よいかな・はづ・なし・)

○漢―家(の)〔之〕舊―風相(ひ)―傳(へ)・漳(平)―濱(平)(の)〔之〕宿―霧(上濁)「イ宿―霧(上濁)將に散(音)シケン(と)〔將(再讀)。(身延文粹・上一五・7)(・つたふ・す・けむ・)

○彼(の)應(平)―曜(去)(人名)獨リ〔於〕淮―陽(二)に臥(三)シ・許―由(人名)長ク穎―水(上)に遊(中)(ひ)シに至(下)(り)テハ・親(音)巳に戚(セキ)里に非(す)・心何ソ濟(去)―川に在(らむ)。

(身延文粹・上一五・8)(・ひとり・ふす・ながし・エイスイ・き・て・は・セキリ・なにぞ・)

○公其(の)社―稷の爲(た)メ・國―家の爲(た)メ・猶(ほ)星―階(返)を履(フ

ンて彌(よ)風―化を施(ほ)セ。(身延文粹・上一五・10) (・た
め・ふむ・ほどこす・)

○然(モ)・章―奏の公(返) (返)を令て宣行(二)セ「令」(再讀)ムル禁
―兵の公翼―衛(二)爲(二)ル・悉に以て停(ト)メ罷(ヤ)メテ乃(ナ)カ―心(奪)を奪、
不(身延文粹・上一五・11) (・しかれども・す・しむ・たり・
とどむ・やむ・なんぢ・むばふ・じ・)

○諸―公―卿の封―祿(二)減(二)セント「イ、減サント」請(三)フ
表(上)に答(下)スル勅(身延文粹・上一五・14) (・す・む・と・
をとす・む・と・こふ・す・)

○勅(す) 朕(ウ)眇―身(以)て(て) 謬(り)て元―首(爲)リ。(身延文粹・
上一六・1) (・べウシン・あやまる・グワンシユ・たり・)

○運(澆) (平濁)―世に属(音)シ・道(訓) 淳―源(源)を離(レ)タリ(身延文
粹・上一六・1) (・す・シユンゲン・はなる・たり・)

○近―曾(炎)―早(シ)テ「イ、炎(旱) (し)・」人―庶(憂)―勞(去)す。(身
延文粹・上一六・2) (・このごろ・す・て・)

○神―靈(を)崇(ヒ)而(功) (返) 無(く)・經(王)―王(イ、經)―王(を)轉(音)
シ而(驗) (返) アラ不。(身延文粹・上一六・2) (・たとふ・す・し

るし・あり・)

○是(を)―用(て)躬(節)―儉(二)を親(二)シ(心)感―通(二)を期(二)
す。(身延文粹・上一六・3) (・み・みづからんす・)

○乃(ち) (舊)―章(返)に稽(へ)て重(て)新(詔)を施(す) (身延文
粹・上一六・3) (・すなはち・かんがふ・かさねて・)

○衣(は)彌(よ)異―綵(二)無(二) (か)ランコトヲ 慮(三)リ。
食(は)亦(た)兼―珍(有)ルコトヲ 嫌(フ)。(身延文粹・上一六・4)
(・なし・む・こと・を・おもんばかる・あり・こと・を・きらふ・)

○民(の)爲(ス)ル所(以)ナリ「也」(身延文粹・上一六・5) (・た
めにす・なり・)

○而(を)卿(等)―蒼(天) (の)「之」德(返)に厭(ク)コトヲ稱(二)
(返)セ不(還)て紫(泥)を「於」流(謙) (二)に美(二)ス。(身延文粹・
上一六・5) (・しかるを・ケイ・ら・あく・こと・を・す・よみ
す・)

○内(は)議(を)「於」股(肱) (平) (二)に合(二)セ(外)は彙(於)
朱(紫) (二)に引(二)ク。(身延文粹・上一六・6) (・ココウ・あ
はす・たぐひ・ひく・)

○至―情に任セ而封(を) (返)折(返)ガンコトヲ求メ・往―跡に違

(ひ)而祿(を) (返)減(返)センコトヲ陳す。(身延文粹・上一六

・7) (・まかす・へぐ・む・こと・を・もとむ・す・む・こと・を・)

○朕猶(ほ)怪フ「焉」。(身延文粹・上一六・7) (・あやしぶ・)

○夫レ・災(平)―害(去) (の)「之」興・必(す)應(去) (返)スル

所(返)有(り)。(身延文粹・上一六・8) (・それ・サイガイ・す・)

(「災」、上欄。)

○朕か「之」逮(返) (は)不(る)「イ、不逮ナル」・蓋(し) 自(フのつか)

(ら)之を招ケリ。(身延文粹・上一六・8) (・フタイ・なり・を

のづから・まねく・り・)

○朕獨(り)民(返)に對(ひ)而謝(二)す可(三)シ「矣」。(身延

文粹・上一六・9) (・むかふ・べし・)

○卿等何ソ己(返)を剋メ而同センヤ「乎」。(身延文粹・上一六

・9) (・なむぞ・をのれ・せむ・をなじうす・む・や・)

○況(ヤ)・大夫等・國―恩是ヲ―憑メリ・私(平)―儲(平)或は乏(トホ)

シ。(身延文粹・上一六・9) (・これ・を・たのむ・り・シチヨ・

とほし・)

○學―館(二)於(三)リ出(三) (て)タル者は風―月唯(た)家―資

爲リ。(身延文粹・上一六・10) (・より・たり・もの・たり・)

○孝―門(二)自(三) (り)移(三)ル者は水―菽(入)祿―養に非ス

トイフこと莫シ。(身延文粹・上一六・11) (・うつる・あらず・と・

いふ・なし・)

○來リ―請フ「之」旨・曾テ容(返)レ不(返)ル所ナリ。(身延文粹・

上一六・12) (・きたる・こふ・かつて・いる・ず・なり・)

○猗―歎(平)・公(返)を助クル「之」誠(二)を悅(三) (返)ハ不(返)

ルニハ非(す)・俗(返)を敦スル「之」志(二)を高(三) (返)セ不

ルニハ非(す)。(身延文粹・上一六・12) (・よし・かな・たすく・

よろこぶ・ず・に・は・あつうす・たかうす・ず・に・は・)

○然モ此の省(上)―撤(上)將(上)に「於」予―一人か「之」身(二)に

止(二)メンと「將」(再讀) (三)フ「也」(身延文粹・上一六・13)

(・しかれども・セイテツ・まさに・とどむ・む・をもふ・) (「撤」、

左傍に「檄」。

○中(去)務(平)の・伯―禽(平) (人名)魯(返)に封セラレ辟(入)―

疆キヤウ（平）（人名）侍―中タリ。（身延文粹・上一七・5）（・チウム・ホウ・す・らる・ヘキヤウ・たり・）

○咨爾アナンチ時平・名―父（の）「之」子訓・功―臣（の）「之」嫡チヤクナリ。（身延文粹・上一七・5）（・あ・なむぢ・チャク・なり・）

○此の良―辰返に及（ひ）て汝か元―服（二）を加（三）フ。（身延文粹・上一七・6）（・くはふ・）

○鳳去―毛平濁酷ハナタ似ニタリ・爵入―命去宜（去）ク殊（返）ス「宜」（再讀）（し）。（身延文粹・上一七・6）（・はなはだ・にる・たり・よろしく・ことにす・）

○前サキ（の）件ケンに依返ル可シ・主―者施―行（身延文粹・上一七・7）（・さき・くだん・よる・べし・）

○中―務ムの先―功コフ父臣の後―胤遺―種ナリ。（身延文粹・上一七・11）（・チウム・センコフ・なり・）（上欄、「父久臣イ本」）

○唯た當―時（の）「之」器―量（二）を悦（二）フノミに非（三）（す）亦た曩ナウ―日（の）「之」附―託（二）に感す。（身延文粹・上一七・11）（・よるこぶのみ・ナウジツ・）

○宜く爵―命返を授ケテ用テ寵―榮（二）を異（二）ス「宜」

（再讀）（し）。（身延文粹・上一七・12）（・さづく・もて・ことにす・）

○前（の）―件に依ル可シ・主―者施―行（身延文粹・上一七・12）（・よる・べし・）

○重（かさ）テ奏―狀返を得テ具（ツ）に其（の）凶―類シケ滋（ハ）ク―蔓（リ）て良―民（二）を殺（二）―略（三）スルコトヲ知（三）（らし）メ（よ）。（身延文粹・上一八・3）（・かさねて・つぶさに・しげし・はびこる・す・こと・を・しむ・）

○兵返を發（ツ）シテヨリ以―來（た）・成―效（去）有（二）ランコトヲ望（三）（む）。（身延文粹・上一八・3）（・をこす・て・より・セイカウ・あり・む・こと・を・）

○而を―今―官―軍敗（返）を致シテ賊（音）―徒氣返を作（ナ）ス。（身延文粹・上一八・4）（・やぶれ・いたす・なす・）

○兵返を用（ぬ）ル「之」道―豈（に）此返（の）如クナラン乎（身延文粹・上一八・5）（・もちゐる・ことし・なり・む・や・）

○今・上野下野等の國（二）返に勅（二）シテ各（の）兵（訓）一千（二）を發（二）シ・亦た重（かさ）テ陸奥（二）返に勅（二）シテ責（セ）ム

ルに緩ク救フコトヲ以^モテス。(身延文粹・上一八・5) (・す・をこす・かさねて・す・せむ・ゆるし・すくふ・こと・を・もてす・)

○宜ク三國の兵^返を合^アセ^テ一^ニ時に禽^ニ滅^スす「宜」(再讀^ニ)シ。(身延文粹・上一八・6) (・よろしく・あはす・べし・)

○凡^ソ軍陣^ノ「之」法・必^ス注^リ記^有リ。(身延文粹・上一八・7) (・あり・)

○其^ノ錄^ニス所^ニ返^ニ察^スて爲^ニ成^ニ敗^ニを圖^ニル。(身延文粹・上一八・8) (・しるす・みる・ため・はかる・)

○今^上奏^ニ所^ニの状^ニ極^ニ省^ニ略^ナリ。(身延文粹・上一八・8) (・かたち・きはめて・なり・)

○胡^{城雲}隔^リ魏^闕天遥^ナリ。(身延文粹・上一八・9) (・へだたる・はるかなり・)

○路^{遠ク}事^疑シ^指シ^指問^フ可^キに非^ス。(身延文粹・上一八・9) (・とほし・うたがはし・とふ・)

○必^ス須^ク事^巨細^ト無^ク委^曲に記^シ録^シテ知^リ見^ル可^クカラ令^ム「須」(再讀^ニ)シ。(身延文粹・上一八・)

・10) (・なし・す・しる・みる・べし・しむ・)

○老^{弱行}去^返に在^リて耕^{種務}を廢^ム。(身延文粹・上一八・11) (・つとめ・やむ・)

○早^ク鏑^{を染ムル}「之」勞^ニを休^メテ當^ニ弓^{を囊スル}「之」化^ニを崇^ニフ「當」(再讀^ニ)シ。(身延文粹・上一八・11) (・やいば・そむ・やむ・ふくろにす・たとふ・)

○勅^到奉^行「イ奉^リ行^ヘ」(身延文粹・上一八・12) (・チヨク^{タウ}・は・うけたまはる・をこなふ・) (行末、「宮式令^説」)

○安^{ケレト}モ危^{ラン}こと忘^レ不^レ況^ヤ處^視方^ニに久^シ。(身延文粹・上一九・1) (・やすし・ども・あやうし・む・)

○治^レトモ亂^{レン}ことを忘^レ不^レ況^ヤ風^聞已^ニに成^レリ。(身延文粹・上一九・1) (・をさまる・り・ども・みだる・む・わする・なる・り・)

○必^ス須^ク事^巨細^ト無^ク委^曲に記^シ録^シテ知^リ見^ル可^クカラ令^ム「須」(再讀^ニ)シ。(身延文粹・上一八・)

○路^{遠ク}事^疑シ^指シ^指問^フ可^キに非^ス。(身延文粹・上一八・9) (・とほし・うたがはし・とふ・)

○必^ス須^ク事^巨細^ト無^ク委^曲に記^シ録^シテ知^リ見^ル可^クカラ令^ム「須」(再讀^ニ)シ。(身延文粹・上一八・)

○者ハ・昔・李―將―軍カ「之」邊(音返)を守ル・胡人敢て南
に―下(下)ラ不(二)。(身延文粹・上一九・2) (・ていれば・ま
もる・コひと・くだる・)

○楊―大―尉(キ)カ「之」鎮(去返)に在ル・敵―國亦(た)以て子
來す「イ、子ノコトクニ來ル」。(身延文粹・上一九・2) (・ヤウタ
イキ・あり・こ・の・ことし・に・きたる・)

○且ハ兵―機(二)を警(二)メ・且(は)耕―織(二)を勤(二)
メて生―民(返)を令て業(返)を樂ヒ・死―生戰(二)を駐(二)メ
「令」(再讀) (三) メヨ(身延文粹・上一九・3) (・かつは・いまし
む・つとむ・たのしむ・たたかひ・とどむ・しむ・)

○陸(去)奥「イ、陸奥」勅符(身延文粹・上一九・6) (・リクア
ウ・みちをく・) (右傍に「世間流布本無此符」)。

○蝦(平)―夷(の)「之」起(返)レルこと表(返)を見て之(返)を具(ツ)シ
ツ。(身延文粹・上一九・7) (・カイ・をこる・り・つぶさにす・
つ・)

○須(子)ク大に諸―國(の)「之」兵(返)を興(フ)シて早(に)以て討
―滅(二)す「須」(再讀) (二) (し) (身延文粹・上一九・7) (・す
べからく・をこす・)

○然―而(も)中―國を費(ツ)シて而夷―狄に資(音)スル・代已(ヨ)に以て
之(返)を刺(ツ)ル(身延文粹・上一九・8) (・つゐやす・し・す・よ・
そしる・)

○倉―廩(二)を耗(二)シテ「而」「イ、耗(し)而」遐(平)―荒(二)
を批(二)ツ「イ、批ツ」後(ヒト)の―者亦(た)未(た)可(返)と爲(返)
「未」(再讀)。(身延文粹・上一九・8) (・ソウリン・つゐやす・
て・うつ・うつ・ひと・す・じ・) (「耗」、右傍に「へいシテ」)。

○加(シ)―之(ス)・蠻(平濁)―貂(入)「之」情(の)・法―禁(の)「之」
用(二) (ある) 所(二)に非(す)。(身延文粹・上一九・9) (・し
かのみならず・バンハク・)

○狼―戾(レ)ノ「之」瞻(平)・宣(ク)・彝(平)―綸(平)「之」施(返)
す所ナランヤ。(身延文粹・上一九・10) (・ロウレイ・の・にぎは
ひ・イリン・なり・む・や・)

○宜(く)威(返)を以て其(の)外(二)を嚴(三)制シ仁(義(返)を以て其(の)内(上)を懷(中)ク「宜」(再讀)下(し)(身延文粹・上二九・11)(・す・なつく・)

○應(に)停(止)す「應」(再讀)勅(旨開)田并て諸(院諸)宮及(ひ)五位以上百姓の田地舍(宅)を買(二)イ(取り)閑(地荒)田(二)を占(二)メ(請(ふ)事(身延文粹・上二十・2)(・カイデン・あはせて・シヨクウ・かふ・とる・カ
ンチ・しむ・)

○格(入)(身延文粹・上二十・3)(・キヤク・)

○右案(内(二)を)檢(二)フルに(項の)年(勅)旨開(田)遍ク諸國に在(り)。(身延文粹・上二十・4)(・かんがふ・しきり・あまねく・)

○空(閑)荒(廢)の(「之」)地(二)を占(三)ムと雖(三)も(是(れ)黎(元産)業(の)「之」)便(二)を奪(三)へリ「也」(身延文粹・上二十・5)(・クウゲン・しむ・レイゲン・たより・むばふ・り・)(「黎」、左傍に「民也」)。

○加(之)新(立)の庄(家)多ク苛(法)を施(二)す。(身

延文粹・上二十一・5)(・しかのみならず・シヤウケ・おほく・カ
ホフ・)

○課(責)尤(繁)ク(威)脅(入)輕(耐)エ難シ。(身延文粹・上二
十・6)(・クワセキ・もとも・しげし・イケフ・たふ・かたし・)

○且(諸)國(奸)濫(の)百姓の(課)役(二)を遁(三)レンか爲(三)に(動)は京(師)に赴(て)好(豪)家に「イ、豪(家)ノ」
屬(す)。(身延文粹・上二十・7)(・かつかつ・カンラン・カヤ
ク・のがる・む・ややもすれば・をもぶく・このむ・ガウケ・カウ
カ・の・)(「濫」、左傍に「監敷」)。

○或は田(地)を以(て)詐(寄)進(二)と稱(三)シ(或は舍(宅)を以て巧(ミ)に賣(リ)與(二)と號(三)す)。(身延文粹・
上二十・8)(・いつはりす・す・たくみに・うる・あたふ・)

○遂に使(返)を請(牒)取(返)て封(返)を加(勝)を立ツ。(身延文粹・上二十一・9)(・こふ・フ・くわふ・パウ・た
つ・)

○國(吏)矯(饒)の(「之」)計(二)を知(三)と雖(三)も(而も)權(貴)の(「之」)勢(二)に憚(三)て口(返)を鉗(舌)返

○返を巻マいて敢て禁シ制シ（二）セ不シ（三）。（身延文粹・上二十一・9）（ケウシヨク・ケクキ・いきをひ・はばかり・つぐむ・まく・す・）

○茲（返）に因（返）（り）て出（返）舉（返）（の）「之」日・事（訓）を權（ケ）門（二）
○返に託（三）ケて正（平）税（二）を請（三）ケ不（三）。（身延文粹・上二十・10）（・ケンモン・つく・シヤウザイ・うく・）

○收（返）納（返）（の）「之」時（コ）穀（コ）を私（私）宅（二）に蓄（タ）へて官（官）倉（二）に運（三）ハ不（三）（身延文粹・上二十一・11）（・コク・たくはふ・はこぶ・）

○賦（返）税（返）の難（難）濟（レ）・斯（返）に由（返）ラ不（返）トイフこと莫（レ）シ。（身延文粹・上二十一・12）（・フゼイ・これ・よる・ず・と・いふ・なし・）

○加（返）之（返）（す）・賂（返）遺（返）（の）「之」費（返）ス所（所）・田（田）地（地）遂（二）に豪（豪）家（の）「之」庄（二）と爲（三）レ（身延文粹・上二十一・12）（・ワイキ・つゐやす・つひに・なる・）

○奸（返）搆（返）（の）「之」損（返）スル所（所）・民（民）煙（二）長ク農（農）桑（の）「之」地（二）を失（三）フ。（身延文粹・上二十一・13）（・カンコウ・す・ビエンエン・ながし・うしなふ・）

○終（返）に「於」身（返）を容（二）ル、に處（二）無（返）シ・還（返）（て）「於」他（他）境（二）に流（三）冗（上）す。（身延文粹・上二十一・14）（・つゐに・いる・なし・リウジヨウ・）

○去（返）ンシ天（天）平（平）神（神）護（護）「イ、神」護（護）元年（元）（の）格（格）を案（二）スルに云ク天下の諸（諸）人競（競）（ひて）墾（墾）田（田）「イ、墾田」を爲（二）。（身延文粹・上二十一・1）（・いんじ・テンビヤウ・キヤク・す・いはく・きそふ・メウテン・はるた・す・）

○勢（返）力（力）（の）「之」家は百姓を驅（驅）リ使（使）ヒ貧（貧）窮（窮）（の）「之」民は自（自）（ら）存（存）（するに）暇無（無）シ。（身延文粹・上二十一・2）（・かる・つかふ・なし・）

○今（返）自（返）（り）て以（以）後（後）一切に禁（禁）断（断）セ。（身延文粹・上二十一・3）（・す・）（原本「自」、破損。）

○寶龜三年の格に云（云）諸（諸）人の墾（墾）田（田）は任（任）開（開）墾（墾）（二）セ令（令）（三）メモヨ。（身延文粹・上二十一・3）（・ままに・す・しむ・）

○但（返）（し）・勢（返）を假（假）（り）て百姓を苦（苦）ハシメは「者」・宜（宜）（ク）嚴（嚴）ク禁（禁）制（制）す「宜」再（再）護（護）（し）。（身延文粹・上二十一・）

・4) (・いきをひ・かる・くるしづ・しむ・いつくしく・)

○弘仁三年の格に云(く)・諸「國」司・朝「憲」(に) 率ハ不(身延文粹・上二一・4) (・したがふ・)

○専ラ私ノ利「私」利」を求メ百端奸欺(して)一(も)徴(し)革ルこと無(し)。(身延文粹・上二一・5) (・もはら・の・リ・もとむ・あらたまる・) (原本「百端奸欺」、「一」、破損。)

○或は他(上) | 人の名(二) (返)を假(三) (り)て多ク墾田(二)を買ヒ受(三) (く)・或は言王臣(上) (返)に託(下)ケて競(ひ)て腴(平) | 地(二)を占(シ)ム。(身延文粹・上二一・7) (・かる・おほく・メウデン・かふ・こと・つく・きそふ・ユチ・しむ・)

○民(の)「之」業(返)を失フコト・此(返)に由(返)ラ不(返)トイフこと莫シ。(身延文粹・上二一・8) (・うしなふ・こと・よる・ず・と・いふ・なし・)

○宜ク重て下 | 知シテ 嚴ク禁 | 制(二)を加(三)フ「宜」(再讀) (三) (し)。(身延文粹・上二一・8) (・よろしく・かさねて・す・いつくしく・くはふ・)

○天長元年の格に云(ふ)・常(の) 荒 | 田(二)有(三)ラは・百

姓耕 | 作シテ一年(の)「イ、身ノ」「之」間は其(の) 耕 | 食(二)を聽(三)ス。(身延文粹・上二一・9) (・クワウデン・あり・す・て・シン・ゆるす・) (「年」、左傍に「身シン イ本」あり。)

○此(返) (返)に因(り)て勢 | 家耕 | 作(二)スルコトヲ得(三)不(三)。(身延文粹・上二一・10) (・す・こと・を・じ・)

○者ハ・件等の格(二)を案(三)スルニ閑 | 地(二)を請(三)ケ | 開キ・荒 | 田(二)を耕(三) | 食スルコト・只(た) 百姓(二)の爲に・獨り其(の) 文を立(三)テタリ。(身延文粹・上二一・10) (・ていれば・す・に・うく・ひらく・す・こと・ひとり・たつ・たり・)

○「于」高 | 貴(二)に至(三) (り)テハ・嚴 | 制重 | 疊セリ。(身延文粹・上二一・12) (・て・は・ば・す・り・)

○而を諸 | 院諸 | 宮朱紫(の)「之」家憲 | 法(返)に憚(ラ)不(し)て競(ひ)て占(メ)請(ク)ルコトヲ爲(ス)。(身延文粹・上二一・12) (・はばかる・きそふ・しむ・うく・こと・を・) (原本「朱紫之家不」、破損。)

紫之家不、破損。

○國―郡の官―司判許(の)「之」日專(ら)墾リ―發(二)クコ
トヲ催(二)に似(三)返タリト雖(も)・其(の)輪―租
(を)勞(音)シ而猶(ほ)土民(の)「之」力―役(二)を盡
(し)・國―内「イ、國―内」(の)「之」農―業(二)を妨(三)
ク。(身延文粹・上二一・13) (・はる・ひらく・こと・を・た
り・と・ユソ・す・さまざま) (原本「司判許之日」「租而猶盡
土民」、破損。)

○左大臣宣(して)勅(を)奉(す)・正(去)―朔遞に―變シテ
驪―輸推シ―遷ル。(身延文粹・上二二・1) (・セン・たがひ
に・す・リカン・をす・うつる) (原本「宣奉」、破損。)

○八―埏(上) (の)「之」地限(返)有リ・百王(の)「之」運(音)
窮(返)無シ。(身延文粹・上二二・2) (・ハチエン・あり・な
し) (・)

○若(し)限(返)有ル「之」壤(上濁) (二)返(二)を削(三) (り)て
常に窮(返)無キ「之」運(音)に奉(三)セハ・則(ち)後―
代の百姓・得而耕ス可(二)ケン乎。(身延文粹・上二二・3)
(・あり・ジヤウ・けづる・きはまり・なし・ホウ・す・う・た

がへす・べし・む・や) (・)

○宜ク當―代以―後の勅―旨開―田・皆―悉に停―止シテ民(返)
(返)を令て貞―作(二)セ「令」(再讀) (二)メヨ。(身延文粹・上二
二・5) (・よろしく・す・す・しむ) (・)

○其ノ寺―社の百姓の田―地は各(の)公―驗(返)に任せて本―
主(二)に還(二)シ―與(アタ)ヘヨ(身延文粹・上二二・6) (・その・
まかす・かへす・あたふ) (・)

○且タ―夫レ・百姓・田―地舍―宅(返)を以て權―貴(二)に賣
(二)リ―寄セン者は蔭―贖(入濁) (二)論(二)返(二)セ不・土―浪
(二)辨(二)返(二)へ不・杖(音)六十(二)決(入濁) (二)セム。(身
延文粹・上二二・6) (・また・それ・ゴンクキ・うる・よす・
む・もの・ランゾク・す・わきまふ・クエツ・す・む) (・)

○若シ符の旨(返)に乖キ―違(ひ)て囑(返)を受(け)て買
(ひ)―取り・并て閑―地荒―田(二)を請(二) (け)―占ムル「之」

家(上)有(下)ラは國(訓)須ク具に料―主并て暑(平濁)―牒(の)
「之」人(訓)・使―者(の)「之」名(二)返(二)を録(二)シテ早―速
に言―上(上)す「須」(再讀) (下)シ。(身延文粹・上二二・8) (・

もし・そむく・たがふ・ゾク・とる・あはせて・しむ・あり・すべ
からく・つぶさに・レウシユ・あはせて・ジヨデフ・しるす・べし・

○論スルに違^キ勅^入返^返を以て曾テ寛^{カツ}宥^{クワン}宥^{イウ}セ不^シ。 (身

延文粹・上二二・10) (・す・キチヨク・かつて・クワンイウ・す・
じ・)

○判^シ許^シ(の)「之」吏は見^見任^任(二)を解^解(三)却^却(入^入濁^濁)セン(身
延文粹・上二二・11) (・ハンキヨ・カイキヤク・す・む・)

○但シ・從^{モト}來^{トヨ}相^相(ひ)傳^傳へて庄^{シヤウ}家^ケ返^返と爲^シて券^{ケン}契^ケ(去

濁^濁分^分明^明ニシテ國^國務^務(二)に妨^妨(三)返^返ケ無^無(か)ランハ・此の
限^{カキ}に在^在(ら)不^不仍^仍て須^須(く)官^官符^符の到^到(り)て後^後・百か日

内に弁^弁(平^平濁^濁)行^行(平^平濁^濁)シテ状^{カタチ}返^返(返^返)を具^{ツク}シテ言^{コト}上^上(二)す

「須^須」(二)(再^再讀^讀) (し) (身延文粹・上二二・11) (・ただし・もとよ

り・つたふ・シヤウケ・す・クエンゲイ・に・す・て・さまざま・
なし・む・は・かぎり・す・かたち・つぶさにす・)

○應^應(に)文^文章^章の生^生(音^音)并^{アヘ}て得^得業^業の生^生(二)を補^フ(三)スル舊

例^例(上^上)に復^{フク}(中^中)ス「應^應」(再^再讀^讀) (下^下) (き)事^事(身延文粹・上二三

・3) (・あはせて・フ・す・フク・す・) (行末、「格」)

○右式^式部^部省^省の解^解(二)(を)得^得(三)ルに僞^{イハ}ク・大^大學^學寮^寮の解^解に

僞^{イハ}ク・文章博士正五位下都の宿^{ミヤコ}禰^禰腹^{ハラ}赤^カ牒^{テフ}(に)僞^{イハ}ク・天^ヒ平^{ヘイ}

二年三月廿七日の格に僞^{イハ}ク・文章の生廿人・雜^雑任^任及^及白^白丁^丁(の)

聰^{チウ}慧^慧(二)ナランを簡^{ケン}(三)ヒ取^トレ(身延文粹・上二三・4) (・

ゲ・う・いはく・いはく・みやこ・はらか・デフ・いはく・テンビ
ヤウ・いはく・および・サウエ・なり・む・えらぶ・とる・)

○年^年(の)多^多少^少(二)と限^限(三)ル須^ヘ不^不。(身延文粹・上二三

・7) (かぎる・べし・)

○者^{テイ}而^而を省^{シヤウ}の去^イシ弘仁十一年十二月八日(の)符に僞^{イハ}ク・太

政官の去^去(し)十一月十五日(の)符に僞^{イハ}ク・唐^唐式を案スルに・

照^照(去)文^文(平)崇^崇(平)文^文兩^兩館^館の學^學生^生には三^三品^品已^已上^上の子

孫^孫を取^トレ・凡^凡流^流(平)を選^{エラ}ハ不^不レトイヘリ。(身延文粹・上二三

・7) (・ていり・シヤウ・いんじ・いはく・いはく・す・とる・
ハンリウ・えらぶ・ず・と・いふ・り・)

○今^チ須^ヘク文章の生^生(上)には「者^者」良^良家の子^子弟^弟(返)を取^取(り)

て寮^寮・詩^詩若^若は賦^賦(二)返^返に試^シ(三)ミテ之^之(返)を補^フ(上)ス「須^須」(再

讀^讀 (下)シ。(身延文粹・上二三・10) (・すべからく・もし・こ

ろみる・フ・す・べし・)

○生(上)の中に稍、進マン者(返)を選ンて省(上)・更に覆一試(平)

濁(し)て号シて俊一士と爲・俊一士の翹(上濁)一楚(上)ノ者(返)を

取(り)て秀一才の生(二)と爲(三)。(身延文粹・上二三・11)・

シヤウ・うち・やや・すすむ・む・もの・えらぶ・シヤウ・フクシ・

ガウ・す・ギヨウソノ・もの・シヤウ・す・)

○者ハ・今良一家と謂フ。(身延文粹・上二三・13)・(ていれば・

いふ・)

○偏(訓)に符の文(二)に據(三)は・三位已上を謂フに似タリ(身

延文粹・上二三・13)・(いふ・たり・)

○縦ヒ果て符の文の如セハ・學一道に妨ケ有ラン。(身延文粹・

上二三・14)・(たとひ・はたして・ごとくす・ば・さまざま・あ

り・む・)

○何ハ「者」・大一學は才(返)を尚フル「之」處・賢(返)を養フ

「之」地「也」(身延文粹・上二三・14)・(いかにとならば・たと

ぶ・やしなぶ・)

○天下(の)「之」俊(志)咸(コト)に來(り)・海内(の)「之」英(平)

竝(な)に萃(アツ)ル。(身延文粹・上二四・1)・(ことごとくに・エイ・

ならびに・あつまる・)

○游(入色)一夏(入色)か「之」徒(上)・元ト卿一相(の)「之」子(訓)

(二)に非(三)す。(身延文粹・上二四・2)・(ともがら・もと・)

○楊(入色)一馬(入色)か「之」輩(上)・寒一素(の)「之」門自(二)り

出(三)てタリ。(身延文粹・上二四・2)・(ともがら・たり・)

○高一才未(かならず)必(かならず)モ貴種(二)ナラ「未」(再讀)。(身延文粹・上二

四・3)・(いまだ・かならずしも・クキシヨウ・なり・ず・)

○々(貴)々(種)未(た)必(かならず)モ高一才ナラ「未」(再讀)。(身延

文粹・上二四・3)・(かならずしも・なり・ず・)

○且(マ)タ夫(フ)レ「イ、且一夫」・王一者(の)「之」人(返)を用(ぬ)ルこ

と・唯(た)才(音)是を貴フ(身延文粹・上二四・4)・(また・

それ・もちある・たとぶ・)

○朝(チ)ニハ斯(シ)一養爲(タ)レトモ・夕(ヨ)ニハ公一卿に登ル。(身延文粹・

上二四・4)・(には・シヤウ・たり・ども・よは・には・の

ぼる・)(本文「ハニハ」は疑問)・

○而(ニ)を一況(イ)ン(や)・區(ク)一々(區)生一徒(ト)・何ソ門一資(二)に

拘カハニラン。(身延文粹・上二四・5) (・いはむや・クク・セイト・なにぞ・かかはる・む・)

○竊ヒソカにハ恐おそハ・悠イウ悠タル後進・此返に返因ヨ(り)て解カイ體センコトヲ。(身延文粹・上二四・6) (・ひそかに・おそらくは・イウイウたり・よる・カイタイ・す・む・こと・を・)

○又(た)中返就クに・文章の生シヤウ(の)中ウに・俊士五人・秀才二人二を置ニク。(身延文粹・上二四・6) (・シヤウ・うち・おく・)

○良テイレ家カに非スと雖モ・之を俊ニ士ニに補フスルコトヲ聽ユルス。(身延文粹・上二四・8) (・フ・す・こと・を・ゆるす・) (・と) 点、位置が低い。)

○者テイレハ・良カ家カ(の)「之」子訓・還マて下カ列カに居ヤリ號返を立ツルこと異返ナリと雖モ・課クラ試シスレ同シ。(身延文粹・上二四・8) (・ていれば・をり・たつ・ことなり・クワシ・これ・おなじ・)

○徒イタツラに節マ目マを増マシテ政マ途マに益エキ無ニシ。(身延文粹・上二四・9) (・いたづらなり・ます・エキ・なし・)

○又(た)令リヤウに依ニル・秀ニ才ニ進ニ士ニの二ニ科クラ有ニリ。

(身延文粹・上二四・10) (・リヤウ・よる・ニクワ・あり・)

○課クラ試シノ「之」法フ・難ニ易ニ同返(し)カラ不フ。(身延文粹・上二四・10) (・クワシ・の・おなじ・)

○所コノユヘ以モに元モト文章得業ゴフノ生ニ二人ニを置ニケリ。(身延文粹・上二四・11) (・このゆへに・もと・トクゴフ・の・をく・り・)

○才サ學ガク(の)「之」淺シヤウ深シヤウに隨ニ(ひ)て二ニ科クラ(の)「之」貢コウ舉キョに擬キセリ(身延文粹・上二四・12) (・ニクワ・コウキヨ・ギ・す・り・)

○今專シラ・秀才の生ニと曰ニフ(身延文粹・上二四・12) (・もはら・いふ・)

○恐おそハ應オウ科クラノ「イ」科クラに應オウ(する)者モノ稀シナラン「矣」(身延文粹・上二四・13) (・おそらくは・の・もの・まれなり・む・)

○望マシヤウ請シヤウセラクハ・俊シヤウ士シヤウをは永トクク停テイ廢テイに從シヤウへ・秀才の生は舊キウ號ガクに復フクセン。(身延文粹・上二四・13) (・マウシヤウ・す・らく・は・ながく・テイバイ・したがふ・フク・す・む・)

○文章の生を選ニハンコトハ・天平格ヒヤウキヤクに依ニラン。(身延

文粹・上二四・14) (・えらぶ・む・こと・は・テンビヤウ・キヤク・よる・む・)

○請フに依レ(身延文粹・上二五・3) (・こふ・よる・)

(以下続)

○謹(み)て處一分を請フ。(身延文粹・上二四・14) (・こふ・)

○者ハ・寮・解|状(返)に依(り)て申(し)|送ル「イ、申送す」。

〔付記〕

(身延文粹・上二五・1) (・ていれれば・レウ・ゲジヤウ・をくる・)

本資料集の凡例は、『広島大学日本語史研究論集』創刊号に掲

○者ハ省・解|状(返)に依(り)て官|裁を請フ(身延文粹・上二

載したものをご参照頂きたい。

五・1) (・ていれれば・ゲジヤウ・こふ・)

本稿(二)は、広島大学・大学院文学研究科平成二十七年度開

○者ハ・正三位行中納言兼(音)左|近|衛大將春|宮大夫良|

講の博士課程前期対象の授業における成果の一部である。

峯ノ朝臣安|世・宣(す)・奉|勅。(身延文粹・上二五・2) (・

本稿(二)に続くデータ集は順次連載の予定である。

ていれれば・トウキウ・ダイブ・よしみね・の・やすよ・セン・)